

の18ヶ年間の天文文献である。1880年以前のものは、さきに Houzeau-Lancaster 共著の文献目錄が完成してゐるし、又、1899年度以後は、ドイツ國の計算局から毎年出版されてゐる *Astronomische Jahresberichte* に全部が含まれてゐる。従つて、前記18ヶ年間のものだけが未編輯として残されてゐるのである。1881年より1898年までと言へば、即ち我が日本では明治14年から明治31年までであつて、日本から出版された天文文献は餘り多くない。しかし、最も廣く、出来るだけ漏れなく文献を集めるため、日本だけで数名の協力者を募りたいと自分は考へてゐる。尚ほ、40名の委員の大多数は歐洲に居る人々で、東洋方面は Selga 師と自分と二人きりであるから、支那や朝鮮方面の文献は、是非自分等が責任を持たなければならないと思つてゐる。但し、インドは全く自分には齒が立たない。(天界第211號第11頁参照)

新 刊 紹 介

- 飯島忠夫博士著 “支那古代史と天文學” 昭和14年2月、東京恒星社發行 3圓60
 同 “天文曆法と陰陽五行説” // 5月 // “ // // 4.20
 E. ハブル氏原著、相田氏譯 “宇宙の實相” // 7月 // “ // // 1.80

飯島博士は今般續けさまに二つの著書を公にされた。“支那古代史と天文學”の方は、大正11年以來昭和12年に至るまで種々の刊行物で發表された邦文英文合せて11種の論文を編輯されたもので、全巻を通じ、博士の獨創的意見が澤山載せられ、しかも其れ等が原論文の訂正等をも含んでゐるため、全く up-to-date の清新さを以つて讀者を惹き、中には、新城増本兩博士の意見を比評されたものもあつて、頗る興味をそゝる。“天文曆法と陰陽五行説”の方も亦同様に、明治45年以來昭和12年までに發表された10種の論文を編輯したもので、之れ亦、必要な訂正が加へてあり、卷末にはジカエ1天文臺發行の支那星圖が附いてある。既刊論文集であるため、通讀して見ると、同一書の中にさへ、重複や、繰り返しがあつて、少々迷惑な點もあるが、之れは寧ろ、統制された一巻づつとしてでなく、讀者が始めから之れを論文集として理解し、讀みたい部分を拾ひ読みをする心持ちで居れば、決して不愉快なものではなく、却つて便利である。論敵新城博士の死なれたあとだから、飯島博士の論文を讀んで、少

々淋しい學界を嘆ずる心をそゝられる。とにかく飯島氏獨特の論據を理解するには兩書ともに好い書物である。飯島氏は、支那天文學が支那の獨創のものでなくて、全くギリシヤ天文學の輸入であるといふ意見を永い以前から持つてゐられ、支那古文書中から多くの證據と思はれるものを示して、縦横に論じてゐられる。吾々、新城博士流の學說を一應呑み込んでゐる者から見ると、飯島博士の説は或る一點に於いて論理の飛躍があるやうに思はれるが、今後益々博士の研究が進んで、此の飛躍を連鎖によつて置き換へて貰ひたい希望を持つ。

ハブル氏の著書は“The Observational Approach to Cosmology”を譯したものであつて、原著書の表題は實に巧みなものであるが、之れを“宇宙の實相”として了つては、つや消しである。何とか、もつと良い表題がほしい。書中の譯文と其の内容とは、相田氏が一通りの學殖と經驗とを有つてゐられる人であるから、大した間違ひは無く、まづ々々安心して讀み得るものと思ふ。只、怨を言へば、原著は非常に興味ある書き方のしてある書物なのだから、之れを譯する事によつて、却つて一般讀者の興味を滅殺するやうな効果の無いやうに注意する點が少々不充分であるやうに思はれるのは遺憾である。譯文といふものは決して素人が考へるやうに容易なものでは無い。むしろ原著者以上の學殖と文才あるもののみが成功し得るものである事を、一般人は記憶されるが良い。

日時計に抗議する

一言苦言を呈します。天界 218 號は總體よく出来てゐますが惜しい事には表紙の日時計の畫が間違つてゐます。あれでは時刻は絶対に測れません。12時の文字がもし正しく眞北の方角に書かれてゐるとしますと、6時は3時及び9時のあたりに書いてなくてはなりませんし、そしてその間隔も等分するわけには参りません。等分出来るのは、眞中の棒が地軸に平行になつて、盤がこれに垂直になつてゐる場合などです。もし畫ではなくて寫真なら、アメリカ人はよほど馬鹿といふ事になります。云々

京都 小林 義 正

[編輯係より：御説の通り、何だか變ですれ！しかし事實下の如き電報も來てゐます。尤も、北極では之れでも好いわけですがネ。]

Sun Dial Painted on Walk

I. N. S.

SEASIDE, Oregon, July 7.—Oblig Seaside officials painted a huge, properly oriented sundial, 10-feet wide, on the boardwalk. Bathers stand in the center and see the hour of the day by their shadows.